



2018
9.15 -
10.21

2018年9月15日(土) 14:15-
オープニングトーク(作家作品解説)

2018年10月20日(土) 14:15-
「広島と水俣と絵画を通して福島を考える」
ゲスト：川延安直(福島県立博物館学芸員)

原爆の図 丸木美術館

会期 2018年9月15日(土) - 10月21日(日)
時間 9:00 - 17:00
休館日 月曜日(月曜祝日の場合は翌平日)
入館料 大人 900円 | 中高生または18歳未満 600円 | 小学生 400円
団体(20名以上)、60歳以上、チラシ持参者、比企地区在住者100円割引
障碍(しょうがい)のある方は半額
主催 公益財団法人 原爆の図 丸木美術館
協力 泉美術館 | つなぎ美術館 | 広島芸術センター | island JAPAN

このチラシをお持ちの方は、
丸木美術館入館料が100円割引となります。



Maruki Gallery For The Hiroshima Panels

Akira Kamo



丸木美術館では、9月15日から加茂昂個展「追体験の光景」を開催いたします。

加茂は3.11以降、原発や放射能が起こす問題を自身の制作の根幹に据えて制作してきました。近年はレジデンスや展示などで訪れた土地で、その土地の歴史やそこに暮らす人々から様々なことを学び、3.11以降を生き延びる知恵を探してきました。本展は、2017年2月に広島芸術センターで開催された「追体験の絵画」、福島の帰宅困難区域に住んでいた友人をテーマにし、2017年6月に開催された「風景と肖像のあいだ」、熊本県にあるつなぎ美術館のレジデンスプログラムに参加しながら水俣病を取材し、2017年12月に開催された「その光景の肖像」、という3つの個展をまとめ、再構成する展覧会となります。

広島での個展で加茂が試みたのは「市民が描いた原爆の絵」という、被爆者の方々がその被爆体験を描いた絵を模写することでした。加茂は模写という行為を通し、自身とヒロシマの歴史との関係性を模索し、自らの絵画を展開させていきました。模写という行為は、加茂にとって歴史上の出来事であったヒロシマを、被爆者個人の歴史として向き合い直していく行為でした。福島をテーマとした「風景と肖像のあいだ」では福島の帰宅困難区域に自宅があり、今は千葉県に移住した友人家族の一時帰宅に同行させてもらい、1つの家族から浮かび上がってくる福島の問題を当事者の目線で考えました。水俣病を取材した「その光景の肖像」では、エコパーク水俣という場所に設置されている水俣病患者の方々が作られた石彫に、水俣病の歴史と現在も続く水俣病の問題を感じとり、それらをモチーフに制作しました。この3つの個展に通底するのは、歴史的な出来事を遠くから眺めるだけではなく、当事者個人個人の歴史としての一面を、絵を描くことで捉えてゆこうとする姿勢です。そして、加茂はこの3つの経験から「祈り」と「のさり」という言葉に着目し、放射能汚染という問題に対する向き合い方の糸口を模索します。

加茂は「祈り」という言葉を、「過去と未来の両方に想像力を伸ばし、その両方を繋げて考え続けること」と解釈しています。「のさり」とは熊本地方の方言で、「授かりもの」という意味の言葉です。水俣病患者の漁師の方が、60年近く水俣病と付き合っていく中で、「水俣病も、のさり」という受け止め方に至るプロセスに加茂は衝撃を受けます。作品を再構成することで、3つの展示に通底するものが浮かび上がるであろう約50点の旧作と、「祈り」と「のさり」、この2つの言葉をキーワードにして制作された新作にもご期待ください。

公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401

TEL 0493-22-3266 FAX 0493-24-8371

URL <http://www.aya.or.jp/~marukimsn/> Email marukimsn@aya.or.jp

- 東武東上線森林公園駅 南口よりタクシー10分、徒歩50分
- 東武東上線東松山駅より市内循環バス唐子コース（日祝運休）約15分
「丸木美術館東」下車徒歩15分
- 関越自動車道 東松山インターより小川方面10分
- 東武東上線つきのわ駅南口から徒歩27分

市内循環バス時刻表（日祝運休）

東松山駅東口 発 → 丸木美術館東 行 08:55 | 10:00 | 11:05 | 13:30 | 14:30 | 15:55

丸木美術館東 発 → 東松山駅東口 行 10:32 | 11:37 | 14:02 | 15:02 | 16:27 | 17:32



5月5日は開館記念日・8月6日はひろしま忌

〔常設展〕 「原爆の図」連作 / 「水俣の図」 / 「南京大虐殺の図」 / 「アウシュビッツの図」 / 「水俣・原発・三里塚」 / 丸木スマ水彩画等



風景と肖像のあいだ 1-3 「風景と肖像のあいだ」island JAPAN（東京／2017）より



追体験の風景 1 / 2 「追体験の絵画」広島芸術センター（広島／2017）より



加茂昂（かもあきら）

1982年東京生まれ。東京芸術大学美術研究科絵画専攻修了。3.11後、「絵画」と「生き延びる」ことを同義に捉え、心象と事象を織り交ぜながら「私」と「社会」が相対的に立ち現われるような絵画作品を制作する。主な展覧会は、「その光景の肖像」つなぎ美術館（熊本／2017）、「風景と肖像のあいだ」island JAPAN（東京／2017）、「追体験の絵画」広島芸術センター（広島／2017）、「土に死を生ける」橘画廊（東京／2016）、「対馬アートファンタジア2016」（長崎／2016）、「航行と軌跡」国際芸術センター青森（青森／2015）、「VOCA展2015」上野の森美術館（東京／2015）、「Wall Art Festival 2014」アジュラムスクール（インド／2014）、「醤油倉庫レジデンスプロジェクト春会期」瀬戸内国際芸術祭2013・小豆島醤油倉庫（香川／2013）、「【絵画】と【生き延びる】」island MEDIUM（東京／2012）、など。



祈りと祈りの痕跡の光景の肖像（部分）「その光景の肖像」つなぎ美術館（熊本／2017）より



追体験の肖像 1 / 2 「追体験の絵画」広島芸術センター（広島／2017）より



加茂昂 追体験の光景 Vicarious Scene